
花巻の地域資源活用と対話を取り入れた
スポーツ合宿のまちづくり事業
- 「意識を変え強くなる」ソフトボール合宿 -

2021年3月31日

花巻市地域おこし研究所
研究員 氏名 高橋 秀行

1. 研究概要	P 3
2. 研究背景	P 5
3. 研究仮説	P 7
【補足】関係団体等へのヒアリング ...	P 10
4. 研究プロジェクト内容	P 13
5. R1（2019）年度実証実験実施・・	P 14
6. 実証実験を経ての今後の展開.....	P 23
7. 実施方法（スケジュール）	P 24

研究概要

- 花巻市の充実したスポーツ施設と温泉宿泊施設を活用したスポーツ合宿の開催
- 「対話」を通じて強くなる特色ある合宿の構築

プロジェクトの目的

花巻市には全国屈指の規模を誇る「石鳥谷ふれあい運動公園」をはじめとした充実したスポーツ施設と東北有数の温泉地で多くの温泉宿泊施設があるが、平日の利用率が少ないため、平日にスポーツ施設と温泉宿泊施設を活用したスポーツ合宿を企画し、地域活性化を図る。

プロジェクトの概要

実証実験として、「対話によるチームが強くなる合宿」メニューを構築し、高校女子ソフトボールチームを対象に「石鳥谷ふれあい運動公園」を活用した合宿を開催し、検証を行う。

プロジェクトの展開

- 市事業としての恒常的な取り組み
- ソフトボール以外のスポーツへの合宿展開
- 地域の方、市職員のファシリテーター養成
- 温泉宿泊施設等地域との連携強化

研究概要（ソフトボール合宿）

- ・ 参加する全ての人・団体がWin-Winの関係にもなる合宿の仕組みづくり



- ・ 充実したスポーツ施設、石鳥谷ふれあい運動公園は全国屈指のソフトボール施設
- ・ 東北有数の温泉地で温泉宿泊施設が充実している

■ 充実したスポーツ施設



- ・ 陸上競技場 全天候型
- ・ 総合体育館 バレーボールコート6面
- ・ スポーツキャンプ村 サッカーコート4面
- ・ 野球場 高性能スコアボード

その中でも、8面のソフトボールグラウンドを備える「**石鳥谷ふれあい運動公園**」は全国屈指の施設

■ 東北有数の温泉地



花巻市の自慢「**温泉の多さ**」

- ・ 花巻市の西部、奥羽山脈の渓谷沿いに湧き出る花巻温泉郷
- ・ 長い歴史のある秘湯から近代的なホテルまで個性も泉質もいろいろ

利用者が少ない平日を有効活用しまちづくり

研究背景

- ・ 花巻市はソフトボールの強豪校が多数
- ・ 求められている夏休み期間の岩手での強化機会

■ ソフトボール女子、各世代に強豪チーム

【学校別女子ソフトボール部の2018年度の主な成績】

- ・ 西南中学校 東北中学校新人大会 準優勝（東和中学校と合同チーム）
- ・ 花巻南高校 インターハイ岩手県予選 ベスト4
- ・ 花北青雲高校 岩手県新人大会 ベスト4
- ・ 花巻東高校 全国選抜大会、インターハイ全国大会出場
- ・ 富士大学 全国大会出場多数

■ 新チームを強化をする場が求められている

- ・ 中学校、高校は6月に3年生が引退し新チームに移行
- ・ 夏休み期間、北東北では高校女子ソフトボールの交流大会等がない
⇒ 市内高校は、福島県、群馬県など他県で行われる交流大会等へ参加

■ 指導者も指導方法を学びたい

- ・ 公立校の指導者はソフトボール経験者が少ない
- ・ 部員の減少、部活動の時間が制限される中、効果的な練習について模索

- ・ 試合の数をこなす合宿は他にある
- ・ 他に例がない「対話を取り入れた合宿」で花巻ならではの特徴を

■ 短期間でチーム力を向上するためには

◆ やる気になる練習へ

- ・ 練習をやらされていると感じてしまうと、早く終わればいい、手を抜いてもいいとなってしまう可能性がある
- ・ やる気になる練習のためには、練習の意図を理解し、考え、工夫するなど、個人のモチベーションが上がる環境が必要
- ・ チーム競技では、「組織全体で一つのことを成し遂げていく」という感覚が必要

◆ 「対話」の必要性

- ・ 同じ状況を経験していても、その状況の「意味」を共有できていないことが多々ある。日頃のコミュニケーションの中的に見つけ、「意味」を共有することにより、チーム力が向上していく。

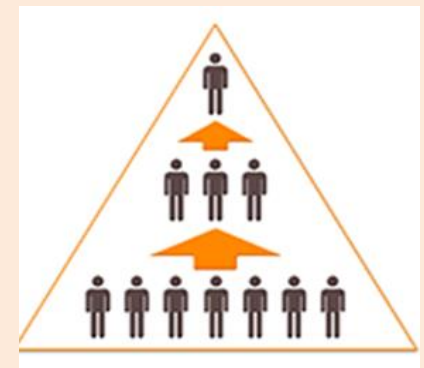
- ・ やる気になる練習にするためには「対話」が不可欠

◆ 指導者の指導方法は適切か

- ・ 一方的な指導では選手の心には響かない
- ・ 選手への「問いかけ」により「対話」が生まれる

ボトムアップ

下意上達で組織の目的・目標を共有したうえで、自ら考えて行動し、発議する。指導する立場はそれを吸い上げて意志決定を行う。



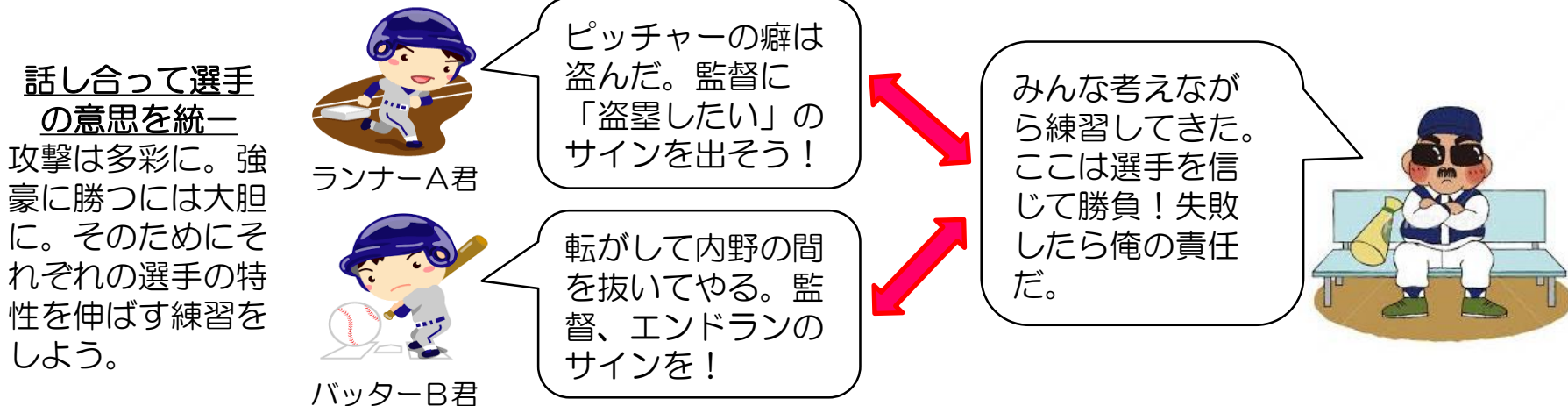
研究仮説

- ・ ボトムアップ理論に触れることで、練習に取り組む意識改革と指導者と選手の意思疎通が向上するのではないか
- ・ 市職員がボトムアップ理論を理解し、ワークショップの講師を務めることは組織にプラス

トップダウンで選手はこんな想いをしているかも・・・



ボトムアップ理論に触れたならば・・・



研究仮説

- ・花巻のチームのチーム力向上、温泉施設の稼働率の向上につながるのでは
- ・「対話」を学ぶ、身に着けることで、まちづくりにつながる

■ 花巻のチームのチーム力向上、温泉施設の稼働率向上

・ 地元チームのチーム力向上

地元チームの参加は、県外へ遠征せずとも県外チームとの試合や交流「対話」を学ぶことによりチーム力の向上

・ 温泉施設の稼働率向上

温泉施設を宿泊先とすることにより、温泉施設の平日稼働率向上

■ 「対話」合宿の効果

「対話」の合宿参加

県外参加チーム

- ・花巻の印象UP
- ・将来、花巻に足を運ぶ

市内参加チーム

- ・チーム力向上
- ・学校で対話

参加スタッフ

- ・「対話」スキル習得
- ・仕事や地域で「対話」



「対話」でまちづくりを活性化

- ・ 市及び県ソフトボール協会の協力体制を得られる
- ・ 首都圏への営業は現段階では困難。東北地域をターゲット

○関係団体へのヒアリング

【ヒアリングの相手方】

- ・ 花巻市ソフトボール協会
- ・ 花巻市ソフトボール協会
- ・ 花巻市コンベンションビューロー

花巻市の取り組みへの意見

- ・ 平日の審判等の派遣等、協力可能
- ・ 市民にふれあい運動公園へ足を運んでもらえる取り組み
- ・ ソフトボール人口が減少傾向であるため、高校生男子、中学校、スポーツ少年団の支援をしてもらえるならば他県協会との調整等協力する
- ・ 首都圏への営業は旅行会社を通さないと難しい。料金徴収・支払いも旅行会社に任せたほうがトラブルがない
- ・ 遠方から花巻に合宿に来るのは大学が多く、強化指定されている部で大学の支援があるところがほとんど。そのため、観光はせず練習に集中している
- ・ 屋外スポーツであれば雨天時の練習場確保が重要
- ・ ターゲットをどう絞るかが重要
- ・ 練習＋試合の組み合わせ

- ・合宿では練習＋試合ができるプランが必要（強豪チームが入っていると魅力）
- ・ふれあい運動公園で県外の高校と試合ができるのはメリットが大きい
- ・雨天時の練習場確保が必須

○大学・高校ソフトボール部顧問・指導者等へのヒアリング

【ヒアリングの相手方】

- ・富士大学女子ソフトボール部監督
- ・盛岡大学女子ソフトボール部監督
- ・花巻東高校女子ソフトボール部監督・顧問
- ・花北青雲高校（監督・顧問口副校長）
- ・花北青雲高校（現役選手父母）
- ・花巻南高校（顧問・コーチ）

花巻市の取り組みに期待すること

- ・社会人など強豪チームと対戦する機会。8月東日本インカレ前後がベスト
- ・合宿と大会（市長杯など）の組み合わせ
- ・整体師のケア、栄養士のアドバイス
- ・スポ少の活性化
- ・補助金制度
- ・富士大学と合同練習ができるとメリットがある。アップの仕方も勉強になり、基礎をしっかりと教えてくれる。
- ・指導者のつながりもできるのでぜひ実現してほしい
- ・雨天時、体幹トレーニングや理論講習、ルール講習などがあれば良いと思う。
- ・費用が掛からずに県外の高校と試合が出来るのは魅力的。応援にも行ける
- ・中学校も遠征に行くので、中学生を対象に企画してもよいと思う
- ・8月初旬は大会がないので、ふれあいである程度のレベルの高校が集まって試合ができるのであればとてもメリットがある
- ・温泉に宿泊できて1泊6,000円ほどであれば納得する金額ではないか
- ・試合をたくさんしたいと思うチームが多いかと思う
- ・日本代表オリンピックメダリストで社会人チームの監督を務める方を講師に技術講習会を行ったことがあるが、スポ少・中学校の指導者が50人ほど参加した

- ・ 閑散日の団体客の宿泊は魅力。学生団体の受入ノウハウがある
- ・ 宿泊料金は2泊3日で12,000円、3泊4日で18,000円ほど

○温泉宿泊施設へのヒアリング

【ヒアリングの相手方】

- ・ 市内温泉宿泊施設 2 施設

学生団体受入状況・ 夏休み期間中の宿泊状況	花巻市の取り組みに対して	宿泊料金設定
・ 土日祝日の大会時に学生団体を受け入れているのでノウハウはある ・ 8月10日～20日頃は一般客で混み合う。上旬と下旬は宿泊が少なく、<u>平日の稼働率は2～3割ほど</u>。	・ <u>閑散日に団体客に宿泊してもらえるのは魅力</u> ・ お湯の良さ「元湯」をアピールする機会	平日2泊3日 又は3泊4日 であれば、 1泊2食付きで5,500円ほど であれば可能
・ 夏休み期間中は7月下旬から8月10日頃まで陸上競技場や体育館の設備が整っているので、高校の陸上部やバレーボール部が合宿に来る。 ・ 8月中旬のお盆期間は一般客で混み合う。	・ 3か月ほど前に予約してもらえれば部屋を抑えられる	高体連料金で対応している

研究プロジェクト内容

- また参加したいと思う「チームが強くなる合宿」魅力ある合宿メニュー構築
- 地域資源（スポーツ・温泉施設、地域の中学校・高校・大学、ソフトボール協会等）の活用

プロジェクト内容

ソフトボール施設として全国屈指の規模を誇る「石鳥谷ふれあい運動公園」の利用率が少ない平日の利用と花巻温泉郷の稼働率が少ない平日を組み合わせ、中堅チームが殻を破って強くなるきっかけとなる「**チームが強くなる合宿**」メニューを用意し、平日に合宿が可能な夏休み期間に中学校・高校・大学のソフトボール部合宿を誘致による地域活性化及び競技人口が減少傾向であるソフトボール界へ貢献する。

魅力ある合宿メニュー構築

慶應大学大学院の助言のもと、市内の指導者、ソフトボール協会等の意見を伺い対話を取り入れたメニューの考案・実践・検証を行い、「**強くなるためのメリットをもたらす合宿**」の仕組みを構築する。

○ R1年度合宿メニュー

- ・「対話」の講習会
- ・選手のみで行う練習試合
- ・対戦校と混合で行う試合後のワークショップ
- ・富士大学ソフトボール部による指導
- ・日本リーグ審判によるルール講習会
- ・岩手県柔道整復師会花巻支部による体のケア等の講習会



○ R2年度合宿追加メニュー

- 普段の各校の練習や練習試合では行うことがないメニュー、近隣チームではなく他県チームが参加する合宿だからこそ行えるメニューの追加
- ・チームをミックスし、戦術を要するゲーム
 - ・試合動画を利用し、各場面での状況判断講座
 - ・指導者向け研修（部活動へ対話を取り入れるにあたって）
 - ・職員ファシリテーター養成塾の開設
 - ・オンライン合宿の企画

R1（2019）年度実証実験実施（ミニ合宿開催による検証）

- ・宿泊能力が多く送迎が可能な金矢温泉を宿泊先として、8月4日（日）～6日（火）に北東北高校女子ソフトボール6校5チームが参加

○参加校 6校5チーム（指導者9名、部員69名（マネージャー含） 計78名）

	指導者	部員	計	備考
岩手県立花巻南高校	3名	18名	21名	
岩手県立花北青雲高校	2名	13名	15名	
専修大学北上高校	1名	11名	12名	
青森県立弘前実業高校	1名	19名	20名	
秋田県立能代松陽高校	1名	5名	6名	連合チーム
秋田県立湯沢翔北高校	1名	4名	5名	連合チーム

○協力団体

- ・花巻市ソフトボール協会（審判員、ルール講習会講師）
- ・富士大学女子ソフトボール部（技術指導）
- ・公益社団法人岩手県柔道整復師会（からだのケア講習会講師）

○合宿内容

全体のファシリテーター 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 山口 寛 特任教授

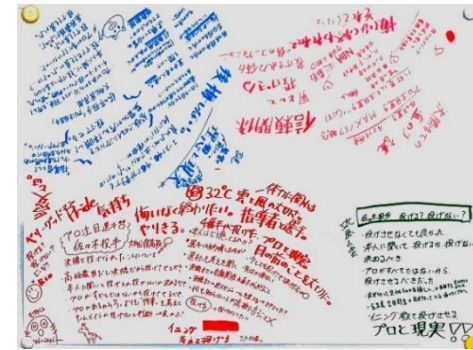
1日目	2日目	3日目
・趣旨説明、対話の技術について説明 ・対話の技術練習 ・富士大学女子ソフトボール部技術指導 ・1日の振り返りワークショップ	・選手のための練習試合2試合（試合前・試合途中ミーティング） ・選手のための練習試合を振り返るワークショップ ・ルール講習会、からだのケア講習会	・練習試合2試合 ・3日間の振り返り

対話の技術練習

趣旨説明、対話の技術について説明、
対話の技術の練習

【対話のルール】

- ① 耳を澄ませて聴く
- ② 否定も断定もしない
- ③ 答えは1つと思わない
- ④ 沈黙を歓迎する
- ⑤ アイデアをつなげる



富士大学女子ソフトボール部技術指導

- ・ 打撃指導
- ・ ポジション別守備指導



選手のための練習試合・ワークショップ②

■ 試合後の振り返りワークショップ

- ・ 対戦相手と混合 (通常の試合では行われない経験)
- ・ **KPT分析**「**Keep**（成果が出ているので継続すること）、**Problem**（問題があり改善が必要なこと）、**Try**（新しく取り組むべきこと）」の説明を行い、そのことを意識した対話。



ルール講習会・からだのケア講習会

■ ルール講習会

- ・ 講師 日本リーグ審判員



■ からだのケア講習会

- ・ 講師 市内整骨院院長



練習試合

■ 2日間の学びを生かした練習試合

- ・選手のみで取り組むチームも



3日間の振り返りワークショップ①

■ チーム毎に3日目の試合の振り返り

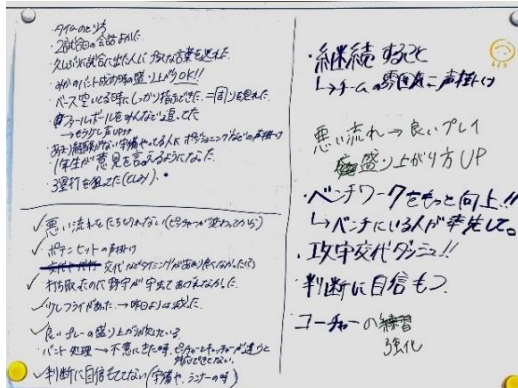
- ・キャプテンがファシリテーター



3日間の振り返りワークショップ②

■ チームをKPT分析

- ・チームのKPT分析表を作成



3日間の振り返りワークショップ③

■ 指導者へのプレゼン、対話

- ・KPT分析の内容を指導者へプレゼン
- ・指導者との対話



○ 岩手日報 (令和元年8月6日)

第1版

2019年(令和元年)8月6日(火曜日)

花巻・地域
おこし研究所

合宿には本県、青森、秋田の3県の6つの高校から女子ソフトボール部の選手約100人が参加。初日の4日は慶応大大学院政策・

振興策市職員が企画
運動や宿泊施設を活用

車まれた練習環境の中、他チームと試合の反省点などについて意見交換する選手

初事業はソフト部合宿

花巻市職員による、地域おこし研究所は6日までの3日間、同市石鳥谷町の石鳥谷ふれあい運動公園で、県内外の女子高校生を招いたソフトボール合宿を開いている。同研究所は人材育成を目的に設立され、職員の企画による事業は今回が初めて。多様なアイデアで同市の宿泊施設やスポーツ資源を活用したまちづくりを進め、関係人口の拡大などを図る。

メディア研究科の山口寛特任教授が、選手に対話の大切さを講義した。5日は講義内容を踏まえ、選手がチーム内の作戦や指示を決める練習試合を行った。

県外の選手は花巻温泉に宿泊しながら、富士天ソフトボール部の指導を受けている。同研究所は2018年8月に市が職員の人材育成を目的に設立。現在は部署の異なる7人で組織し、地域資源を生かした活性化の施策などを検討している。

美琴主将(2年)は「他人の意見を素直に受け止め、課題を指摘し合うチームづくりをする」と決めた。来年の夏に「つなげたい」と思われた環境の中での成長を実感していた。

同研究所は2018年8月に市が職員の人材育成を目的に設立。現在は部署の異なる7人で組織し、地域資源を生かした活性化の施策などを検討している。

今回は職員で、市教委なども課の高橋秀行子育て支援係長(4)が企画。市の充実したスポーツ施設や温泉施設を有効活用しよう、と山口特任教授や花巻市ソフトボール協会などの助言を取り入れた。

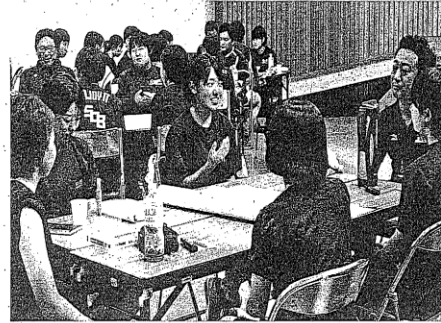
高橋係長は「関係人口の拡大や経済効果を生み出し、市の発展につなげたい。さらに検討を進め、将来的に他のスポーツでも同様の企画に取り組みたい」と意気込む。

○ 岩手日日 (令和元年8月7日)

岩手日日

令和元年(2019)8月7日(水曜日)

対話重ね競技力向上



6校による3日間の合宿で、成果や感想を述べ合う選手

【花巻】花巻市職員、口の紙などを見る。構成する市地域おこし研究所は、4・6日の3日間、初事業として同市石鳥谷町の会場に県内外の高校ソフトボール部の女子選手を招いた合宿を開いた。選手同士が対話を通じて作戦やサインを示す練習試合を行い、チームの弱点克服やコミュニケーション能力に磨いた。同研究所では事業の成果を検証しながら、次回以降に合宿対象のスポーツを増やし、交流人口の拡大などを図る。

合宿には岩手、青森、秋田3県の6校から女子ソフトボール部の選手、指導者の約100人が参加。慶応大大学院政策・メディア研究科の山口寛特任教授(福岡県福津市在住、津屋崎フランチLFP代表)を迎え、ワークショップなどで学年や年齢差の壁を乗り越えた対話とコミュニケーションの大切さを訴えた。石鳥谷ふれあい運動公園で練習試合を行い、選手が作戦や指示を決め、失敗を恐れずに果敢に挑むための闘争心を養った。参加校の選手がばらばらに交じった試合も行い、積極的に話し合うことがコミュニケーション能力の向上を図った。

最終日は3日間の振り返りを行い、山口特任教授が指導しながら選手がチーム内で反省会や今後試したいことなどを話し合ってきた。指導者も選手の意見を聞きながら今後のチーム力向上のために練習方法の改善に役立てた。

花巻市職員の工藤彩夏主将(2年)は「監督やコーチの指導に頼ってきたが、合宿でチーム内でサインを出し合うことで考えの力を付けることができた。対話を通じて課題を克服できるチームづくりに役立てたい」と、専大北上高の小原愛加主将(同)は「学年の壁はあるけれど、壁がなくなればチームがもっと一つになると思う。1年生からたくさん意見を聞いてチームを強くしたい」と合宿の成果を語った。

山口特任教授は「学校では学ばない合宿では学ばない」と合宿

県内外高校が合宿

市研究所 地域おこし効果検証も

を介して学べる機会となったはずだ。社会や選手先では対話が重要になるので、自分が発信源になれるよう自信を深めてほしい」と助言していた。

同研究所は市が職員の地域おこしの研究、開発、実践の人材育成を目的に2018年8月に設立。現在は部署の異なる7人で組織し、花巻の地域資源を生かした活性化の施策などを検討している。

初事業のスポーツ合宿では3日間通じて生徒にアンケートを実施し、チーム力向上の波及効果や経済成果を検証する。

R1（2019）年度実証実験実施（ミニ合宿開催による検証）

- ・事業の検証と今後の展開を検討するためのアンケート調査
- ・参加部員の対話への苦手意識が減少した

■部員アンケート内容

- ・対人意識アンケート（合宿前、合宿終了後）
- ・内省的アンケート（1日目、2日目、3日目終了後）
- ・合宿内容別および今後に向けてのアンケート

■部員アンケート結果

・初対面の人と話すのは得意な方ですか？

	合宿開始前	合宿終了後	増減
得意	4. 2%	10. 1%	5. 9 _票 ↑
どちらかと言えば得意	13. 9%	34. 8%	20. 9 _票 ↑

・年上の人に言いたいことが言えますか？

	合宿開始前	合宿終了後	増減
言える	2. 8%	10. 1%	7. 3 _票 ↑
どちらかと言えば言える	18. 1%	30. 4%	12. 3 _票 ↑

- ・対話を繰り返すことにより人と話すことへ前向きになっていく様子が感じられた

■部員アンケート結果（自分の内面の変化）

この合宿をやる前は、本当に他者と話すのは苦手でした。でも、今回で自分は話すことができましたので自信になりました。

できるだけ会話を続けようとする自分がいた。

先輩に思った事を話して、チームの勝利のために一歩近づけたと思う。

自分が積極的にしゃべってびっくりした。

初対面の人と話すことが楽しくなった。第一印象とのギャップなども自分の中で楽しめた。

いつも、遠慮して本音を言えなかったけど、今回の合宿を通して、少しだけ意見が言えるようになりました。

1人1人が対話を意識することで言いやすい環境になった。

対話によって相手のことが分かるし、考えが分かるので、部活だけでなくこれからもずっと大切なことだと思います。

R1（2019）年度実証実験実施（ミニ合宿開催による検証）

- ・指導者からの評価は概ね好評
- ・ややスケジュールが過密

■指導者アンケート内容

合宿内容別および今後に向けてのアンケート

■指導者アンケート結果

○合宿の日数（2泊3日）は適当ですか？

- ・長い 1
- ・適当である 6
- ・短い 1

○温泉宿泊で費用いくらが理想ですか（2泊3日の場合）

10,000円～15,000円が望ましい

○参加校を公募した場合参加を希望しますか

- ・希望する 7
- ・内容を見直し（充実）するならば希望する 1

○対話を取り入れた合宿の感想

- ・選手のための試合の振り返りがとてもよい。手法などもっと充実してほしい。
- ・短期間で話す内容が変わった、成長を感じる
- ・部員のみで行う練習試合では普段の戦術と異なる戦術を用い、後で理由を聞いたところ明確な回答があり驚いた。今後は部員との対話をもっと取り入れていく。
- ・スケジュールがやや過密で、せっかくの温泉宿泊なので温泉にゆっくり入りたい
- ・指導者も勉強になる
- ・冬期間に合宿を行ってもよいと思う。グラウンドが使用できない期間のモチベーションが上がる。

R1（2019）年度実証実験実施（ミニ合宿開催による検証）

- ・合宿3か月後、県外参加校を訪問しヒアリング

チームの変化（部員）

- ・ KPT分析をミーティングに取り入れ、内容が濃くなった。
- ・ 2年生中心に話しを進めていたが、1年生も話すようになり一体感が強くなった。
- ・ 試合でミスしても積極的に声掛けをするようになった。
- ・ 練習を朝集まって選手が今日は何のために何をやると練習内容を決めて監督に報告。

自分自身の変化（部員）

- ・ 母親とけんかすることが少なくなり、母親が疲れているときは、何か手伝おうと思うようになった。
- ・ 自分のことばかり主張していたと気づかされた。相手の話を聞くことができるようになった。
- ・ 学校への送り迎えでありがとうと言うようになった。今までは当たり前だと思っていた。感謝の気持ちは話さなければ伝わらない。
- ・ いろいろなことを話すようになった。親は自分に興味がないと思っていたが、自分が親にほとんど話さなかったからだと思った。
- ・ 母親と些細なことでケンカをしていたが、前よりもソフトボールのことや学校のことを話すようになって、仲が良くなった。

実証実験を経ての今後の展開

- ・「対話」の合宿内容をブラッシュアップし、事業の継続、拡大を図る
- ・ソフトボールに限らず「対話で強くなる花巻のスポーツ合宿」

2019

- ・対話の合宿の効果及び需要があることを確認
- ・1回の合宿で、県外参加者50～80名を見込める

2020

- ・県外から3校参加予定（ほかにも参加問合せ複数）
- ・新たな取り組みを企画（独自メニュー・オンライン）
- ・市職員ファシリテーター養成講座を企画

2021

- ・スポーツ振興課と共同事業
- ・他競技への拡大の検討
- ・ファシリテーターの養成に注力

実施方法（スケジュール）

・ 4か年のスケジュール

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
関係機関調整	調査・立案・実施	実施・検証	実施・検証
2018.12～2019.3 関係機関と事業の基本構想について協議を行い調整 ・花巻市ソフトボール協会 ・岩手県ソフトボール協会 ・大学・高校ソフトボール部 ・花巻市観光協会 ・各温泉組合 ・市関係機関（観光課・スポーツ振興課） ・花巻市体育協会・花巻市スポーツコンベンションビューロー	2019.4～2019.8 合宿メニューの考案 合宿ニーズ調査 ・石鳥谷ふれあい運動公園で開催される大会に参加する高校・大学に合宿ニーズ（時期・機関・費用等）調査を行う。 2019.8 高校女子ミニ合宿（2泊3日） ・東北地域4校（新チーム）を予定。合宿終盤は地元校も参加した練習試合。 2019.10～2020.3 翌年度事業立案（規模・対象拡大）	2020.4～2020.7 合宿企画、参加校募集 2020.8（中止） 高校女子ソフトボール合宿（2泊3日） ・コロナウィルス感染症が県内で発生したため中止 2021.1（中止） 高校女子ソフトボール合宿（2泊3日） ・コロナウィルス感染が拡大しているため中止	通年 スポーツ振興課と共同で事業を行い、2022年度からの事業化を検討 ・他のスポーツ合宿検討 ・市職員ファシリテーターの養成 ・実施方式の検討（直営又は実行委員会） 20022.1 高校女子ソフトボール合宿（検討中）